

そだちサポートプロジェクト
令和8年度 第1回 そだサポ研修&交流会
事後アンケート集計

開催日 令和8年6月12日（金） 18：30～20：20

参加者： 71名 21機関（講師、事務局除き、69名 19機関）

・機関（オブザーバー含む） 11 / 19 回答率： 58%

・回答者数（個人） 28 / 69名 回答率： 41%

1. 事業所やお住まいがある地域はどちらですか？

奄美大島	喜界島	沖永良部島	徳之島	与論島	鹿児島市	鹿児島市外	その他
23				1	4		

2. 今回の事業所研修&交流会はいかがでしたか？

満足している	まあまあ満足している	満足していない
25	3	

3. 今回の事業所研修&交流会は日々の業務等に役立つと思われましたか？

とてもそう思う	そう思う	全くそう思わない
23	5	

4. 前半の研修はいかがでしたか

テーマ：「支援ニーズの高い子どもへの支援について～情緒面の不安定さを持つ子どもの理解～」

大変満足している	まあまあ満足している	満足していない	不参加	未記入
21	6	1		

5. 前半の研修について意見や感想を自由に書いてください。

【研修内容について】

【共生社会・インクルーシブ社会への理解と学び】

・共生社会やインクルーシブ社会について、ICFやノーマライゼーションなどの基本理念から国内外の動向まで幅広く学ぶ機会となった。内容は難しいと感じながらも、先進国の取り組みや共通する原則に触れ、理想的な社会像を考えるきっかけとなり、新たな知識や視点を得られたという意見が多かった。

【日本と海外の比較・日本の現状への気づき】

・日本はハード面では整備が進んでいる一方で、ソフト面や社会の意識改革に課題があることが共有された。海外の先進事例とのギャップや、日本のインクルーシブ教育の遅れを実感し、発想の転換や地域に応じた支援の在り方を模索していく必要性を感じる声が多く挙がった。

・日本のインクルーシブ教育について、学校はこれでいいのかと疑問を抱えていたので、今後世界の先進国の在り方を少しでも取り入れて変化して欲しいと感じた。

【子どもの意見表明・自己決定の尊重】

・「私たちのことを私たち抜きで決めないで」という言葉が強く印象に残り、子どもの意見を引き出し、尊重することの重要性を再認識する機会となった。子どもたちが自分の気持ちや考えを表現できるよう支援者自身の関わり方や技術を高めていく必要性が共有された。

【支援や実践への示唆・今後に向けて】

・研修を通じて、障害の有無にかかわらず安心して社会参加できる仕組みづくりを目指す視点や、自身の支援の在り方を見つめ直す機会となった。すぐに実践につながる内容ばかりではないものの、今後の療育や支援の方向性を考え、目指すべき姿を持つことの大切さを感じたという意見が多かった。

【難しさ・戸惑い・課題意識】

・テーマの難しさから、具体的に何から取り組めばよいかが見えにくく、国・行政と現場との考え方の違いに戸惑いを感じる意見も見られた。一方で、「一歩先」を見据えながら、具体的な行動に落とし込んでいく必要性を感じる声も挙がった。

【印象に残った事例・キーワード】

・輪島市の「Share金沢」の事例に関心を持つ声があり、地域共生社会を実践する具体的なモデルとして印象に残った。

【時間設定や、時間の長さ】

・研修時間については、「ちょうどよかった」という意見があり、全体として適切な時間設定であったと受け止められていた。

【感想・その他】

・法人理念として以前から共生社会の実現に取り組んできた参加者からは、今回の研修によって最新の動向を踏まえながら

6. 後半の交流会はいかがでしたか

大変満足している	まあまあ満足している	満足していない	不参加	未記入
16	9	3		

7. 後半の交流会について意見や感想を自由に書いてください。

【インクルーシブ教育・共生社会への課題意識】

・インクルーシブ教育や共生社会の実現に向けては、地域における取り組みや情報発信がまだ十分ではなく、道のりの長さを感じている参加者が多かった。また、学校と療育機関の連携強化や、インクルーシブに関する理解を広げる機会づくり、制度面での省庁間連携の必要性など、環境整備に向けた課題意識が共有された。参加者自身も今後さらに学びを深めていきたいという意欲を示していた。

【学び・情報収集への意欲】

・生涯発達や特別支援学校の実践、地域の事業所情報など、現場の具体的な話を聞くことができたことを高く評価する声が多かった。また、多様な意見や感想に触れることで、新たな視点や考え方を得られ、学びを深める機会になったという意見が多く見られた。

【他職種・他事業所との交流や意見交換の価値】

・放課後等デイサービス、学校教員、福祉関係者など、立場の異なる参加者同士が意見や体験を共有できたことに大きな価値を感じていた。日頃関わる機会の少ない他事業所や他職種との交流を通して、共感や気づきを得るとともに、自身の業務に生かしたいという前向きな意見が多く寄せられた。

【「目の前のできること」への気づきと実践意欲】

・理想の実現には時間がかかるものの、まずは身近なところから小さな取り組みを積み重ねることの重要性を再認識した参加者が多かった。自分事として捉え直し、「今できること」から行動に移していきたいという意欲や、子どもたちにとって良いと思うことを諦めずに実践していきたいという前向きな姿勢がうかがえた。また、地域において就労までつなげる支援体制への期待も見られた。

【グループワーク・研修運営への意見】

・グループワークについては、他者との交流そのものには高い満足感があつた一方で、テーマが広く抽象的だったため、何を話せばよいか迷ったという意見が見られた。あらかじめ具体的なテーマやお題、事例が設定されていると、より話しやすく交流が深まるのではないかと要望が多かった。また、研修時間については概ね適切であるとの評価が得られた。

8. 参加者からの質問事項にお答えください。

①インクルーシブの考え方について、地域や保護者へどのような発信をしているか。

【地域への情報発信・啓発活動】

・「施設訪問受け入れ」「地域との行事（秋祭り、もちつき会、マルシェなど）」「保護者勉強会」「家族会」「HP」など、参加や発信を行っている。

・出来るだけ地域の方との交流の場に参加することや、インスタなどで保護者への情報発信を実施している。

・障がいの有無に関わらず、その人がその人らしく住み慣れた地域で心豊かに暮らせるために、その人自身の力が引き出せるよう支えることを担う事業所であることを、研修会の実施やイベントを通じて、地域は保護者講演会に発信している。

【保護者・行政・地域との連携による理解促進】

・私たちの地域は、これまで「療育」「神経発達症」といった言葉や、関連する事業所自体がほとんど存在しない状況だったため、まずは基礎的な理解を広げる段階として、行政と保護者会などが、協力しながら次のような取り組みを進めている。

☆行政や保護者、県外の先進事例を紹介できるスーパーバイザーを招き、講演会や勉強会を開催

☆行政主催の福祉祭りなどのイベントを通して、障がい・療育・インクルーシブの基礎知識を地域に周知

・現在は、地域全体でインクルーシブの基礎理解を広げている段階であり、行政と連携しながら、少しずつ共通理解を積み重ねている状況。

【日々の支援や面談でのインクルーシブの実践】

- ・就学に向けてその子が安心して楽しんで行ける学習環境の選択。
- ・「インクルーシブ」という言葉使っていないが、面談の時に目指すところは、共生社会であるということと一緒に話している。

【学校との連携・インクルーシブの考え方の共有】

- ・現時点では、当事業所として大規模な情報発信は行っていないが、学校との担当者会議などでは、インクルーシブの基本的な考え方として次の点を共有している。

☆「静かな場所が必要なのは、その子が弱いからではなく、環境が合っていないだけ」

→ 人ではなく“環境を調整する”という視点を大切にすること

☆ 教員だけで抱え込まず、地域・専門家・保護者が連携する仕組みづくり

②職員間で支援方法を統一するために、心掛けていることはあるか。

【情報共有・共通理解の促進】

- ・職員会や朝礼などで、同じような関りをすることを伝えあっている。
- ・毎日の朝礼で、前日の出来事についてや、参加した会議の報告など、共有し、共通理解を図っている。
- ・とにかくみんなで話して共有するようにしている。
- ・毎朝の朝礼にて、情報の共有、最近の様子から子どもの姿を予測し、一貫した対応をとれるようにしている。
- ・毎日の朝礼、昼礼や月1回の職員会議の開催。勤務日数や時間が違う職員との連絡ツール（記録簿や引き継ぎノートなど）の活用
- ・職員間の情報共有、ミーティングなどの話し合い、日々の振り返りを行っている。
- ・支援前後にミーティングを実施している。

【話しやすい職場づくり・意見交換の促進】

- ・ミーティングはもちろんのこと、普段から意見を言いやすい環境づくりを重視している。

【支援の統一・質の向上に向けた取り組み】

- ・勉強会や事例検討会を行うことで、支援方法の統一を目指している。
- ・週に一度ミーティングを実施している。その際に、遊びや支援方法（困り感）を共有し、意見を出し合い、PDCAサイクルを取り入れている。

④ 理念・方向性の確認と共有

迷った時は、ガイドラインの読み合わせなどを通して、国や地域の目指している方向性や現在地を確認し、事業所の方向性についても話し合うようにしている。

⑤ 組織体制の整備

指揮系統の明確化を図っている。